



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2023～2024 年度 テーマ

プロバスだより

第336号

2023 年 11 月 9 日発行

編集・発行 情報委員会

楽しみながら学び合い、支え合おう

第 336 回例会

日 時 令和 5 年 10 月 12 日 (木) 12:00～14:00

場 所 八王子エルシィ

出席者 31 名 出席率 70%

(会員総数 48 名、欠席 13 名、休会 4 名)

1. 開 会 岩島 例会委員

第 336 回例会を開催。本日の出席者数は 31 名、出席率は 70%です。資料の確認。

2. 会長挨拶 持田会長

秋の彼岸を過ぎましたら、急に夏から冬のような気候になりました。体調管理に十分気を付けて下さい。



昨日は八王子市長・教育長へのご挨拶伺いました。長く続きました生涯学習サロンを当クラブ会員の高齢化などの理由のため、休止して、新しい取り組みとして音楽祭および合唱祭のような催しに形態を変えていくことを伝えました。そして、市の小中学生の音楽への関心を更に高めることに役立ちたい旨を報告しました。今までのプロバスの活動や、シニアダンディーズのことも深い理解と関心を持って頂いておりました。

また、10 月には昨年から今までに入会された方 5 名を中心に初めての試みですが、歓迎懇親会を開催する予定です。会員委員会にて後ほど詳細説明があります。是非、この機会に多くの方に参加して頂き、新入会員の方との親睦を深めて頂きたいと思っております。

今年度のメインイベントである音楽祭（合唱祭り）の概要がまとまりつつあります。来年 3 月ですが、皆さんの全員参加の協力で成功させましょう。

もう一つの今年度の取り組みとして、会員の皆さんにどこかの同好会や活動に所属してもらいたいです。約 4 割の方が無所属でどこにも所属していな

いで、例会と委員会活動だけに参加しているようです。どこかへ所属して仲間を増やして、より楽しいクラブライフを過ごしてい載きたいと思っております。

そのために、例会毎に各同好会紹介を行っております。

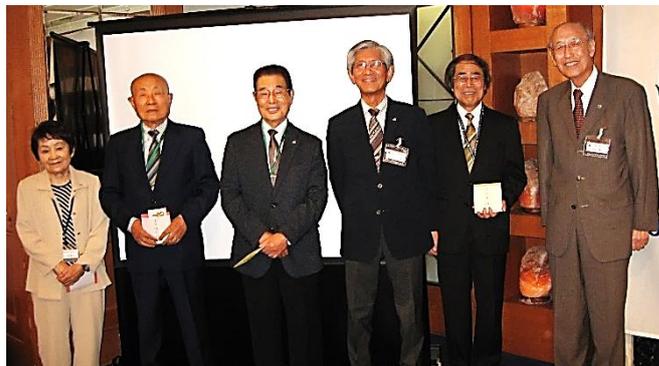
最後に、ハッピーコインの件数が減ってきております。小さなハッピーも是非公表して頂きたい、ご協力をお願い致します。

3. ハッピーコイン披露

塚本副会長からハッピーコイン 13 件の披露がありました。(3～4 ページに掲載)

4. バースデーカードの贈呈

10 月生れの会員に池田会員手作りのバースデーカードが贈られた。



写真左から、立川会員、土井会員、岡本会員、山口会員、丸山会員、会長

5. 卓 話

子どもたちの幸せのために

深谷 正徳

私は現在、八王子市立の四つの小学校の放課後子ども教室の学習アドバイザーとして活動しています。

私が子ども教室で行っていることは、白地図に 47 都道府県名を記入できるようにすることと小学 1 年相当のたし算 100 問から成る「100 問チャレンジ」を使っている計算練習です。



本日は算数を中心にお話しいたします。同じ 100

問の計算でもこれを 1 分間で解く力があれば分数計算でも手順さえ覚えれば楽に解くことができますが、10 分もかかるようでは繰り上がりのたし算でも苦勞するでしょう。小学 1 年生レベルのたし算を高レベルの計算に使えるように訓練することが大切です。つまり「できる」という段階から「使える」段階に計算力を高めるのが私の指導の目的です。

当初は放課後子ども教室で一人でも多くの小学生の基礎計算力を上げることができれば、と思っていました。活動を続けるなかで、5 年生が一桁どうしのたし算でも指を使っている例を多数見かけるようになり、小学生の計算力の実態を明らかにする必要性を強く感じました。

そこで一人の校長に「100 問チャレンジ」を使っただけの調査を依頼すると、すぐに 3 年生で実施していただくことができました。その結果を整理すると、私が 3 年生に必要と考える 3 分以内でできたのは 27 名中 4 名だけでした。3 分というのは 1 問あたりほぼ 2 秒で答える速さです。それくらいの力がなければ筆算での繰り上がりも困難になります。ところが 8 分以上かかっているのは 9 名。これは明らかにいわゆる「落ちこぼれ」及び「落ちこぼれ予備軍」です。もっと厳しく言えばクラスの大半が「予備軍」といってよいでしょう。

落ちこぼれは低学年のうちには気づきにくく、3 年生、4 年生以降に目立ってきます。ところが 4 年生の担任は「この子は 4 学年の学習ができない」と思っていて、原因が 1 年生の学力不足であることに気づいていないのではないのでしょうか。これでは 1 年生に高学年の授業を受けさせているようなもので、学級崩壊、いじめ、不登校などの一因となっても不思議ではありません。

そもそも学校は貧困から抜け出すために読み書き計算を学ぶところであるということは発展途上国の教育事情をみればわかります。学校は読み書き計算を基礎として学力をつけるのが目的です。このように言えば「学力よりも人格形成だ」との反論があるかもしれません。そこで伝説の国語教師といわれる大村はまの「ことばを育てることは、こころを育てること、人を育てること、教育そのものである」ということばの意味をかみしめたいと思います。

ところがいまの日本においては、貧困から抜け出

すための読み書き計算、それが十分に育てられないために学力の貧困となり、子どもを不幸にしているように思えてなりません。

極めて深刻な問題であるにもかかわらず、教育関係者も無関心な「落ちこぼれ問題」をしっかりと受け止めなければなりません。まずは、できるだけ多くの先生たちに「100 問チャレンジ」を実施し、学力の実態を認識し、対策を立てて実行してほしいものです。学年に関係なく、もしすべての児童が 3 分以内でできるようになったとしたら、それだけでクラスの様子は大きく変わることでしょう。

本日は「落ちこぼれ問題」を中心に話しましたが、いちばん申し上げたかったのは「どの子どもも育つ。育て方次第」ということであり、いわゆる英才教育にも通じることだと思います。

6. 幹事報告

齋藤幹事長

今までの暑さに閉口していた日々から、一気に季節が進み冬支度をなさった方も多いと思います。今日は気持ちよい秋の日で岩島会員の司会でスタートしました。深谷さんの卓話も言葉は心を育てる、人を育てる、子供たちの幸せのためにと願うお話しでした。

先ほど持田会長からもお話しいただいたことですが、重複しますがお伝えします。

① 合唱祭は順調に進んでおり、馬場地域奉仕委員長の参加希望校へのアタックは理事会の報告でも目を見張る思いで聞いております。今後は会員皆様のご協力を要請されると思いますが、成功させるよう頑張らしましょう。

② ホームページ見直し・規定改正の作業には様々な検討課題が山積しています。もう少しお時間をいただきたいと思います。

③ シニアダンディーズは来年の八王子市の成人式式典で歌います。その晴れ姿も楽しみです。

幹事報告は以上です。

7. 委員会活動報告

(1) 情報委員会

内山副委員長

ホームページへのアクセス件数は前月より約 340 件減少し、294 件でした。

(2) 会員・研修委員会

池田委員長

昨年来、5 人の方々が新しく入会されました。大変喜ばしいことです。感謝を込めて歓迎懇親会を

企画しました。皆さまのご参加をお待ちしています。期日は10月26日(木)18時より、会場は山本肉店。会費7千円。

(3) 交流担当

一瀬担当理事

来年の五所川原での全日本の総会・大会への東京八王子プロバスクラブとしての旅行に関しては、前からお話ししているように最大のネックは宿泊場所の確保です。すでに旅行社とコンタクトしており青森のホテル五所川原へのアクセスや大会後の旅行スケジュールなど固まっています。

8. 全日本プロバス協議会

一瀬幹事長

9月28日に京王プラザ八王子で全日本プロバス協議会の理事会を開催しました。全国から9名の理事が出席し、田中会長の後の次期会長に旭川プロバスクラブの馬場康弘さんを全会一致で選任いたしました。また五所川原大会の詳細の企画報告、2022年度の活動報告・決算報告が承認されました。

この理事会の内容を中心にした広報誌協議会「ニュース」第10号を自前印刷にて編集発刊いたしました。回覧しておりますのでご覧ください。

今月は14日に六ヶ所プロバスクラブの15周年、26日に大垣プロバスクラブの20周年記念行事が開催されますので田中会長と訪問する予定です。

9. 同好会報告

ゴルフ同好会 持田 律三

現在ゴルフ同好会の登録人数は12名です。クラブ創立後、間もなくクラブが発足されたと伺っております。ですから、20数年の歴史があります。平均年齢は約82歳と高齢化が進んでおります。最近では以前と異なり、健康を損ねたり、急に体調を崩される方が多く、実際にゴルフ会を開催すると2組(8名)を準備するのは容易ではありません。

通常は春秋2回のコンペが開催されます。それに、多摩地区の3プロバス(日野・多摩)合同コンペが春秋ありますので、年4回のゴルフ会を楽しんでおります。

ゴルフは自然の中で、結局一人でやるスポーツです。自分との闘いです。スコアも自分で申告です。紳士のスポーツです。マナーもなかなか厳しいです。自然とおとなの常識が試されます。ほぼ一日のプレーになりますので、一緒にプレーをしますと同伴者



の人となりが見えになりより親しくなります。昼にはランチを一緒にとりますので、団欒もできます。緊張とリラックス、そして健康にも良く90歳くらいまでは遊べます。寿命100歳の時代、これから始めて見ませんか。是非、一緒に楽しめる方の参加・入会を募っております。

10. プロバス賛歌

起立、斉唱

11. 閉会

塚本副会長

本日の出席者は70%ということです。この数字が大きくなるよう“皆さん健康に留意”しがんばりましょう。ハッピーコインでは92歳になられた立川富美代会員の「好きなことだけをやって自由に楽しい90代を生きよう」の言葉には重みと共に、私は生き方について考えさせられました。

深谷会員の卓話の中で大村はま先生の「言葉を育てることは人を育てること」にうなずき、プロバス会員の皆さんが孫や近所の子供たちに関われる材料を投げかけてくれたと思いました。

各委員会報告では、プロバスの例会等に各会員が積極的に参加したい気持ちを持たせるにはと、工夫と努力をされ、会員一人一人がプロバスの会員であることの誇りを持たせるにはどうしたらよいかと考えていることを強く感じました。その工夫と努力、その呼び掛けに応える皆様の声や行動を待っているのではないかと感じました。皆さんそれぞれの各委員会への直接、間接の関わりをしっかりと持ちましょう。同じように同好会にも持ちましょう。

これで本日の例会を終わりにします。



◆毎年恒例の第44回いちょう祭りが11月18日から19日までの二日間開催されますが、プロバスクラブとして参加しません。個人的にご参加下さる方がおられましたら、是非、岡本までお声を掛けてお手伝いをお願いします。 岡本 宝蔵

◆猛暑の夏から秋を通り越して一気に冬になってしまいました。地域によってはコロナワクチンが不足しているようです。早く7回目接種を受けて元気に冬を迎えたいと思います。 持田 律三

◆今月76歳になります。最近はこのほか月日や時

間が早く過ぎていくのを実感しています。

山口 三郎

◆10月8日肥沼バースデーフェスティバルにて、放射線の公園でシニアダンディーズが出演しました。谷村新司の昴とふるさとなどの唱歌5曲を歌いました。アンコールまで頂いて大変好評でした。大変ハッピーでした。

持田 律三

◆シニアダンディーズは10月中二つのステージ歌いました。令和6年1月8日の「成人を祝う会」で式典の中で「君が代と八王子市歌」を演奏することが決まりました。来年は創立15周年、平均年齢85歳と節目の年です。益々健康に楽しく歌います。サポーターの大きな支援を感謝です。

立川富美代

◆70代、80代は、有名な和田秀樹先生が「好きなことだけやって寿命を使い切る」と書いています。又「体を使う・頭を使う」と書いてあります。健康に92歳を迎えました。これからも「好きなことだけやって」自由に楽しい90代を生きようと思います。自分の足で自由に歩けるのもハッピー！！

立川富美代

◆一瀬幹事長のアレンジで月1回ペースの全国訪問を続けていることは先月も報告しましたが、明後日は六ヶ所村へ行って来ます。各地のユニークな活動に刺激を受けます。

田中 信昭

◆趣味の陶芸で友人からの依頼によるマグカップを作陶しました。良い色でとても気に入りました。と評価され、とてもハッピーな気分になった秋でした。

有泉 裕子

◆富士山にも初雪が降り、気候は元に戻ったのでしょうか。平穏な秋・冬になることを祈っています。そうなればハッピー。

馬場 征彦

◆長かった猛暑日が去って、季節は待望の秋、年配者には何よりの薬です。今日もまた例会に出られることに感謝して。

杉山 友一

◆10月8日のDr 肥沼バースデーフェスタで我がシニアダンディーズが日頃の練習成果を発表しました。来場して下さった会員の皆さん有り難うございました。

岩島 寛

◆飯田会員退院おめでとうございます。回復に向かったのリハビリ、大変ですが復帰をお待ちしております。

一瀬 明

◆バレーボール、ラグビー、体操など若いアスリー

ト達の世界での活躍が素晴らしい。今朝は将棋で、これも若い藤井八冠達成のニュース。これが政治や実業の世界に反映されればいいのに。 一瀬 明

俳句同好会便り

私の一句（十月の句会から）

河合 和郎

年齢や体調の関係でお休みのメンバーが増えた。今月は5人だけの淋しい句会となった。「寄る年波」という言葉がある。「老いて益々」ともいう。俳句の同人は後者の人間でありたいと願って止まない。

秋風や旧友と行く神楽坂 下山 邦夫

若い頃の思い出のまちなのか。昔懐かしい神楽坂界限を友人と散策しつつ往時をしのぶ。そんな思いの伝わってくる一句である。この句は地名が効果的。ブレイキン時代を映す秋祭り 馬場 征彦

「ブレイキン」て何？という方も多いと思う。一口で言えば路上で踊るダンスの一種。パリ五輪の新種目にも登場するので、時代を先取りした一句とも言える。

夕風にふはりと乗りて赤とんぼ 池田ときえ

いかにも俳句らしい作品。作者の柔軟な思考がそのまま句に表現されている。柔らかくしなやかな作品が生まれた。トンボはホバリングもできる飛行術の名手でもある。

筆まめの便り途絶へて秋深む 田中 信昭

筆の兼題句。いつもこまめに手紙をくれる友人からの便りが途絶えた。そして訃報が。物悲しい秋を一層悲しくさせる無言の便りとなった。

草の実を道連れにして家路かな 河合 和郎

草の実は動物や人の衣服に種を付着させて広がっている。とにかくしつこく「引っ付いて」くる。下手に草原の草叢などを歩くとひどい目に合う。そんな光景を一句に。

編集後記

4頁に収めるようにしましたので多少見苦しいところがありますが、ご容赦を。

情報 内山

